南島原市文化財調査報告書　第14集

慈　恩　寺　跡

― 市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事に伴う発掘調査 ―

２０１８

長崎県南島原市教育委員会

南島原市文化財調査報告書　第14集

慈　恩　寺　跡

― 市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事に伴う発掘調査 ―

２０１８

長崎県南島原市教育委員会

発刊にあたって

本書は，市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事に先立ち，南島原市教育委員会が平成28・29年度に実施した慈恩寺跡発掘調査の調査成果を収めたものです。

これまで市域中央部にあたる西有家町では，発掘調査の実績が少なく，とくに先史時代の歴史については未解明な部分が多く残されていました。

そうしたなか今回の発掘調査では，小規模な調査面積であったにもかかわらず，土器や石器など縄文時代の貴重な遺物が確認され，西有家町慈恩寺地区の新たな歴史的事実が明らかとなりました。

今後，この成果を足掛かりに，さらなる地域文化の解明が進んでいくことを願っています。また，本書が学術研究や教育など多方面で広く活用されることを望みます。

最後になりましたが，発掘調査にご理解とご協力をいただきました地元の皆様，工事関係者様，発掘作業と整理作業に従事くださいました作業員の方々に心より厚く御礼申し上げます。

平成30年９月30日

南島原市教育委員会

教育長　永田　良二

例　　言

1　本書は，慈恩寺跡（長崎県南島原市西有家町慈恩寺所在）の発掘調査報告書である。

2　調査は，南島原市が事業主体である市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事に伴って実施した。

3　調査は，長崎県南島原市教育委員会が主体となって実施した。調査の体制は，以下のとおりである。

調査主体

南島原市教育委員会　教　育　長　永田　良二
教 育 次 長　渡部　　博（平成28年度）
同　上　　深松　良蔵（平成29・30年度）
文化財課長　松本　慎二
文化財課文化財班　班　長　木村　岳士（平成28・29年度）
同　上　末永　　透（平成30年度）

調査担当

範囲確認調査

南島原市教育委員会文化財課文化財班　主　査（学芸員）　本多　和典
主　事　　大熊　玲奈

本調査・整理調査

南島原市教育委員会文化財課文化財班　副参事（学芸員）　本多　和典

4　範囲確認調査における土層実測図の作成および写真撮影は，大熊玲奈が行った。

5　本調査における個別遺構図の作成は，酒井希望・佐藤三夏が行い，写真撮影は，本多和典が行った。遺構配置図および土層実測図の作成，航空写真の撮影は，㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6　遺物の実測は，湯田由美・本多が行った。拓本は，岩田貴子が，製図は，湯田・本多が行った。遺物の写真撮影は，本多が行った。

7　本書に関する遺物，図面，写真等は，南島原市深江埋蔵文化財整理室において保管している。

8　本書の執筆・編集は，本多による。

本 文 目 次

第Ⅰ章　位置と環境……1
　第１節　慈恩寺跡の位置と周辺地理……1
　第２節　慈恩寺跡と周辺遺跡……1

第Ⅱ章　範囲確認調査……3
　第１節　調査に至る経緯……3
　第２節　範囲確認調査の成果……3

第Ⅲ章　本調査……6
　第１節　調査に至る経緯と調査の方法……6
　第２節　基本土層……6
　第３節　遺構……6
　第４節　出土遺物……10

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図……2
第２図　周辺遺跡……2
第３図　調査坑配置図……4
第４図　本調査区位置図……4
第５図　調査坑土層図……5
第６図　土層図……7
第７図　遺構配置図……8
第８図　土坑平面図・断面図……9
第９図　土坑内出土遺物……9
第10図　溝状遺構平面図・断面図……9
第11図　出土土器……10
第12図　出土石器……11

表　目　次

第１表　土坑内出土遺物観察表…… 9
第２表　出土土器観察表……12
第３表　出土石器観察表……12

図 版 目 次

図版１　航空写真①……15
図版２　航空写真②……16
図版３　範囲確認調査……17
図版４　航空写真③……18
図版５　作業状況……19
図版６　発掘調査前状況・表土剥ぎ状況……20
図版７　遺物出土状況……21
図版８　土層堆積状況・遺構等検出状況……22
図版９　出土遺物①……23
図版10　出土遺物②……24

第Ⅰ章　位置と環境

第１節　慈恩寺跡の位置と周辺地理

慈恩寺跡の所在する長崎県南島原市は，有明海へと突き出た一周およそ100㎞を測る島原半島の南東部に位置し，北部は島原市と，西部は雲仙市と接する。また，有明海（島原湾）を挟んで対岸には，熊本平野，宇土半島，天草地方の島々を望むことができる。有明海上には，島原・天草一揆の際，一揆首謀者たちが計画を立てたとされる湯島（談合島）が浮かぶ。

島原半島の中央には雲仙の山々がそびえ，四方に裾野を広げている。雲仙の主峰は，1990年までは標高1,359ｍの普賢岳であったが，198年ぶりに噴火した普賢岳は山頂に溶岩ドームを形成し，現在新たな主峰として標高1,483ｍの平成新山が誕生している。

慈恩寺跡の位置する地点は，雲仙山系高岩山から南東に延びた丘陵上，標高130ｍ付近である。

第２節　慈恩寺跡と周辺遺跡

慈恩寺跡は，現在も地名としてその存在が伝わるが，詳細についてはよくわかっていない。今回の発掘調査においても，寺跡としての成果を期待したが，直接的に寺跡につながるような遺構・遺物の検出には至らなかった。ただ，遺跡内に所在する八幡神社には，周辺から発見されたキリシタン墓碑が集められており，中世末以降のこの地域の歴史をうかがい知ることができる。また，今回の発掘調査において，縄文時代後・晩期に位置づけられる土器・石器を多数検出し，慈恩寺跡の縄文遺跡としての新たな一面が明らかになった。

市域での人類活動の痕跡についてみてみる。旧石器時代においては，布津町大崎鼻遺跡でナイフ形石器の，有家町下木場遺跡(現在は通野遺跡に名称変更)で三稜尖頭器の出土が知られるくらいである。

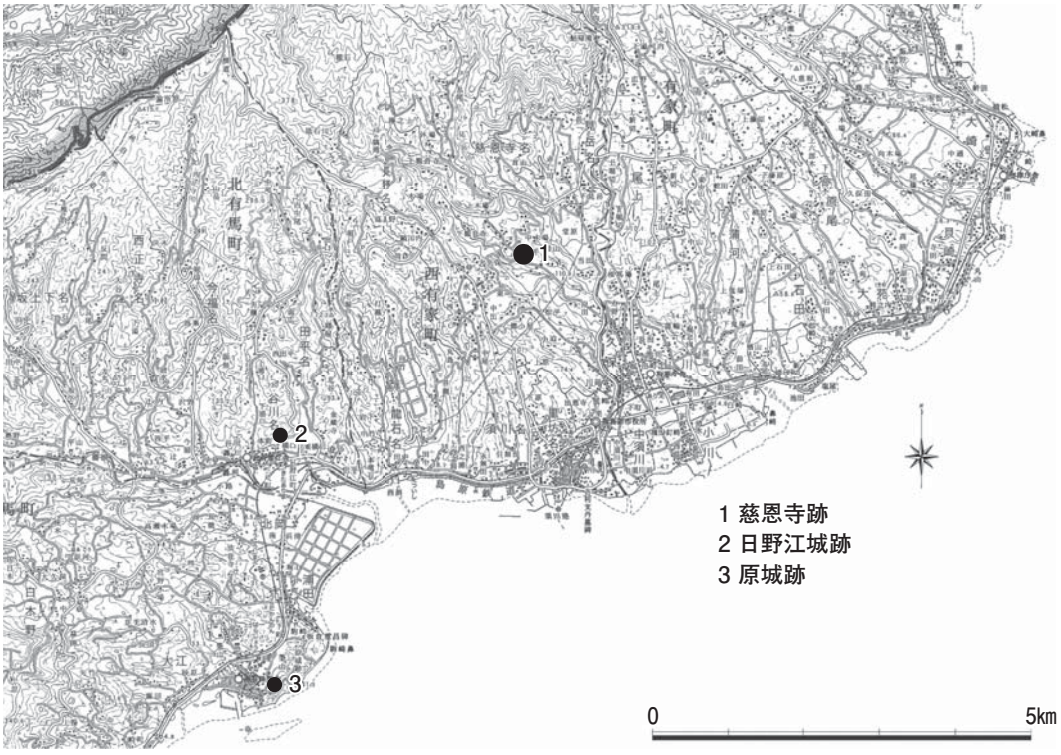
縄文時代に入ると，早期以降市内各所で多くの遺跡が見られるようになる。深江町下末宝遺跡では，多数の押型文土器が検出されている。縄文時代から弥生時代への移行期の市域を代表する遺跡として，北有馬町の国史跡原山支石墓群がある。３群からなる支石墓の数は100基を超え，支石墓群としては国内最大規模を誇る。同じく縄文・弥生移行期の遺跡である深江町権現脇遺跡では，雲仙普賢岳噴火災害後の水無川上流域における砂防工事に伴って発掘調査が実施され，まとまった量の遺物の出土がある。南有馬町北岡金比羅祀遺跡においては，弥生時代のものと考えられる甕棺墓から銅剣１本が出土しており，標石墓であった可能性も指摘されている。

また近年，市域では活発に農地の基盤整備事業がすすめられており，深江町諏訪地区，有家町大苑地区・原尾地区，西有家町見岳地区では，特に縄文時代から古墳時代にかけての良好な遺跡が多数新たに発見・調査されている。その成果については，今後の報告を待ちたい。

中世期以降の市域の歴史は，有馬氏の台頭，キリスト教文化の流入，キリスト教の禁教によって特徴づけられる。北有馬町の国史跡日野江城跡は有馬氏の居城で，これまでの発掘調査においては，本丸から大型土坑や掘立柱建物跡，二ノ丸から階段遺構や掘立柱建物跡，礎石建物跡などが検出され，大量の土師器や瓦，輸入陶磁器なども出土している。また，南有馬町の国史跡原城跡は，有馬氏によって本城機能を日野江城跡から移す目的で築城されたが，1637年に勃発した島原・天草一揆においては，島原・天草地方の民衆が廃城となっていた原城に籠城し，幕府軍に抵抗している。発掘調査では，破却された石垣に伴って多くの人骨やキリシタン遺物が確認されている。

［参考文献］
伊藤健司編　2010　『原城跡Ⅳ』南島原市文化財調査報告書第４集　南島原市教育委員会
本多和典編　2011　『日野江城跡　総集編Ⅰ』南島原市文化財調査報告書第６集　南島原市教育委員会

第 1 図　遺跡位置図（S＝1/200, 000）



第 2 図　周辺遺跡（S＝1/100, 000）

第Ⅱ章　範囲確認調査

第１節　調査に至る経緯

南島原市西有家町慈恩寺において，市建設部建設課により市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事が計画された。工事のおもな内容は，既存道路の拡幅であり，沿線の畑地，水田が掘削を受ける計画であった。

計画地は，その大部分が慈恩寺跡の範囲内であったことから，平成28年度に南島原市教育委員会が調査主体となって範囲確認調査を実施した。

調査期間及び調査面積は，以下のとおりである。

調査期間　平成29年１月16日～平成29年１月19日

調査面積　28㎡（２ｍ×２ｍの調査坑７箇所）

第２節　範囲確認調査の成果

工事計画地において平面２ｍ×２ｍの調査坑を７箇所設定して，遺跡の広がりと内容を確認するための調査を実施した。

範囲確認調査によって確認された基本土層は，以下のとおりである。

Ⅰａ層　灰黄色土。耕作土。

Ⅰｂ層　にぶい黄褐色土。耕作土基盤土。

Ⅱａ層　褐色土。造成土。鉄分の沈着あり。

Ⅱｂ層　にぶい黄褐色土。造成土。

Ⅱｃ層　にぶい黄褐色土。造成土。人頭大の亜円礫を多量に含む。

Ⅱｄ層　暗褐色土。造成土。

Ⅲ　層　黄褐色土。（見岳地区Ⅱ層：弥生時代遺物包含層）

Ⅳ　層　にぶい黄褐色土。縄文時代後・晩期の遺物包含層。（見岳地区Ⅲ層：縄文時代晩期遺物包含層）

Ⅴ　層　黄褐色土。（見岳地区Ⅳ層：縄文時代早期遺物包含層）

Ⅵ　層　黒褐色土。（見岳地区Ⅴ層）

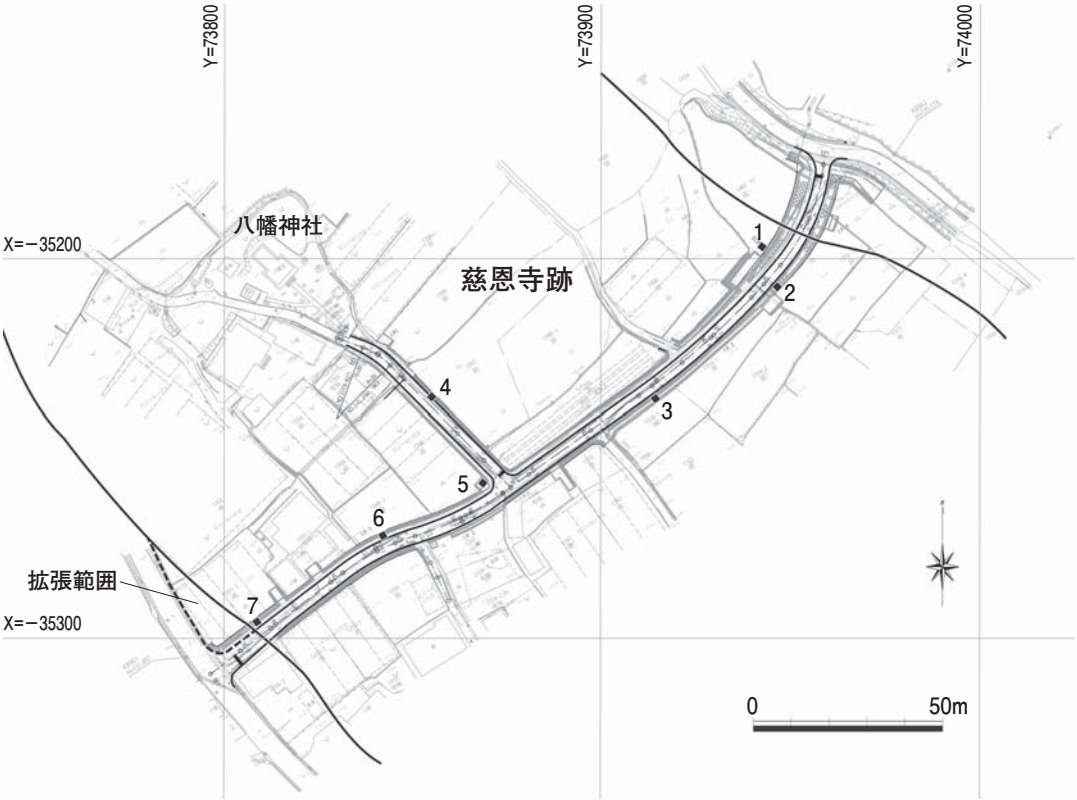
Ⅶａ層　黄褐色土。（見岳地区Ⅷｂ層）

Ⅶｂ層　明黄褐色土。人頭大の亜円礫を多量に含む。（見岳地区Ⅷｄ層）

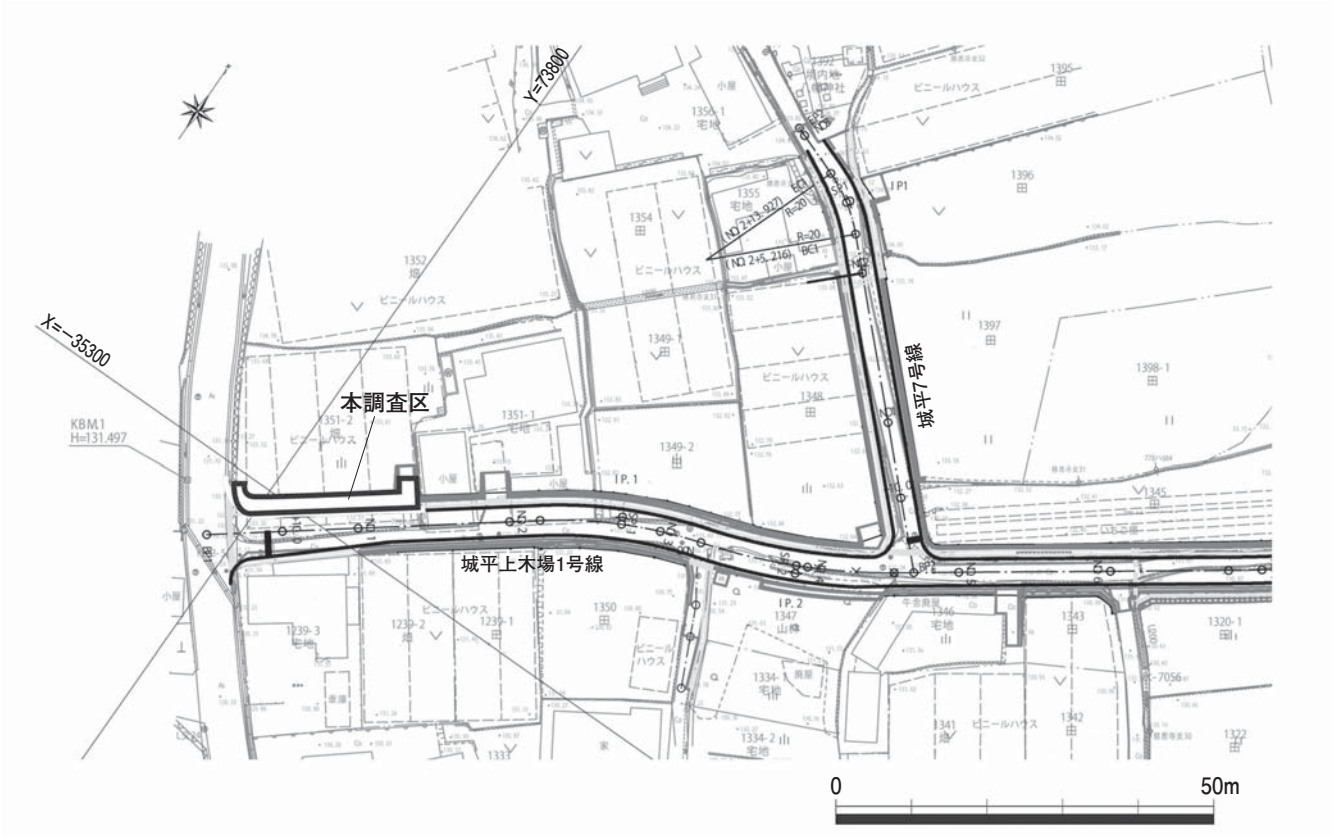
慈恩寺跡において確認された基本土層は，近年ほ場整備事業によって試掘・確認調査を実施している南島原市西有家町の見岳地区における基本土層の層序とも並行関係を追うことが可能であった。

「慈恩寺」に直接的にかかわる遺構や遺物の確認には至らなかったが，縄文時代に属すると考えられる遺物の包含層を調査坑７において確認した。また，その広がりは一部，遺跡隣接地まで広がっているものと判断されたため，遺跡範囲の拡張をおこなっている。

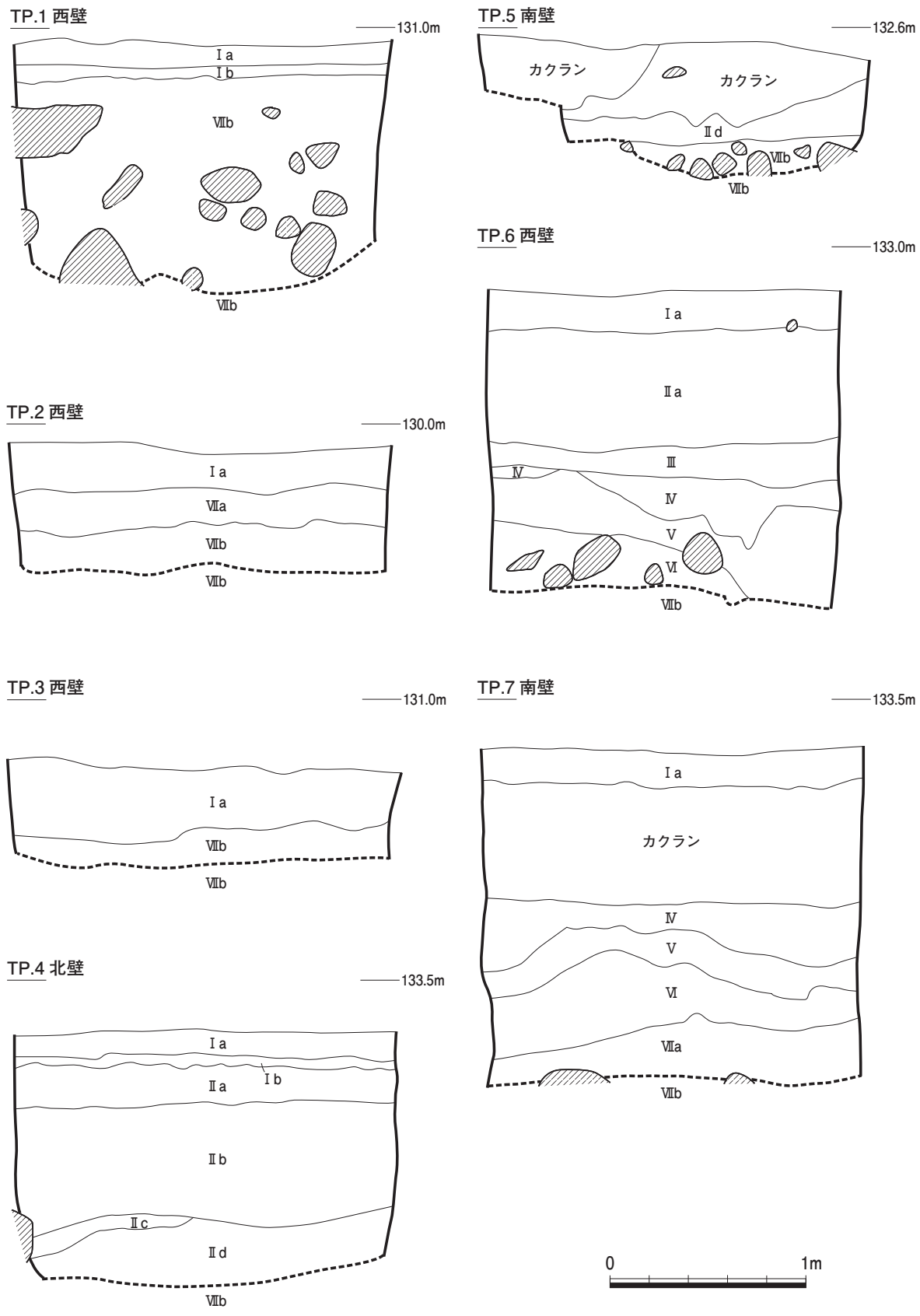
以上の範囲確認調査の結果をふまえ，市道城平上木場１号線の南西側始点付近，山手拡幅部について約150㎡の本調査が必要と判断した。



第 3 図　調査坑配置図（S＝1/2, 000）



第 4 図　本調査区位置図（S＝1/1, 000）



第 5 図　調査坑土層図（S＝1/30）

第Ⅲ章　本調査

第１節　調査に至る経緯と調査の方法

平成28年度に実施した範囲確認調査の結果に基づき，調査坑７周辺の工事計画地を対象として本調査区を設定した。

調査期間及び調査面積は，以下のとおりである。

調査期間　平成29年５月25日～平成29年７月28日

調査面積　145㎡

調査にあたっては，まず重機による表土及び造成土の掘削を行い，４ｍ間隔の調査グリッドを設定した。調査グリッドは，国土座標Ｘ＝－35184，Ｙ＝73792の地点を原点Ａ１と定め，南北方向にアルファベットを，東西方向に算用数字をそれぞれ割り振り，それらを組み合わせて交点名称とした。また，調査グリッドの名称については，グリッドの北西隅の交点名称を充てた。

第２節　基本土層

基本土層は，以下のとおりである。

Ⅰ層　黒褐色土。耕作土。

Ⅱ層　灰黄褐色土。畑基盤土。

Ⅲ層　造成土。

Ⅲａ層　灰黄褐色土。黄色土・黒色土ブロック含む。粘性，しまり強い。現代遺物多く含む。

Ⅲｂ層　黒褐色土。黄色土ブロックを含む。

Ⅲｃ層　灰黄褐色土。Ⅲａ層に似るが，しまり弱い。

Ⅲｄ層　にぶい黄橙色土。粘性非常に強く，人頭大の礫多く含む。

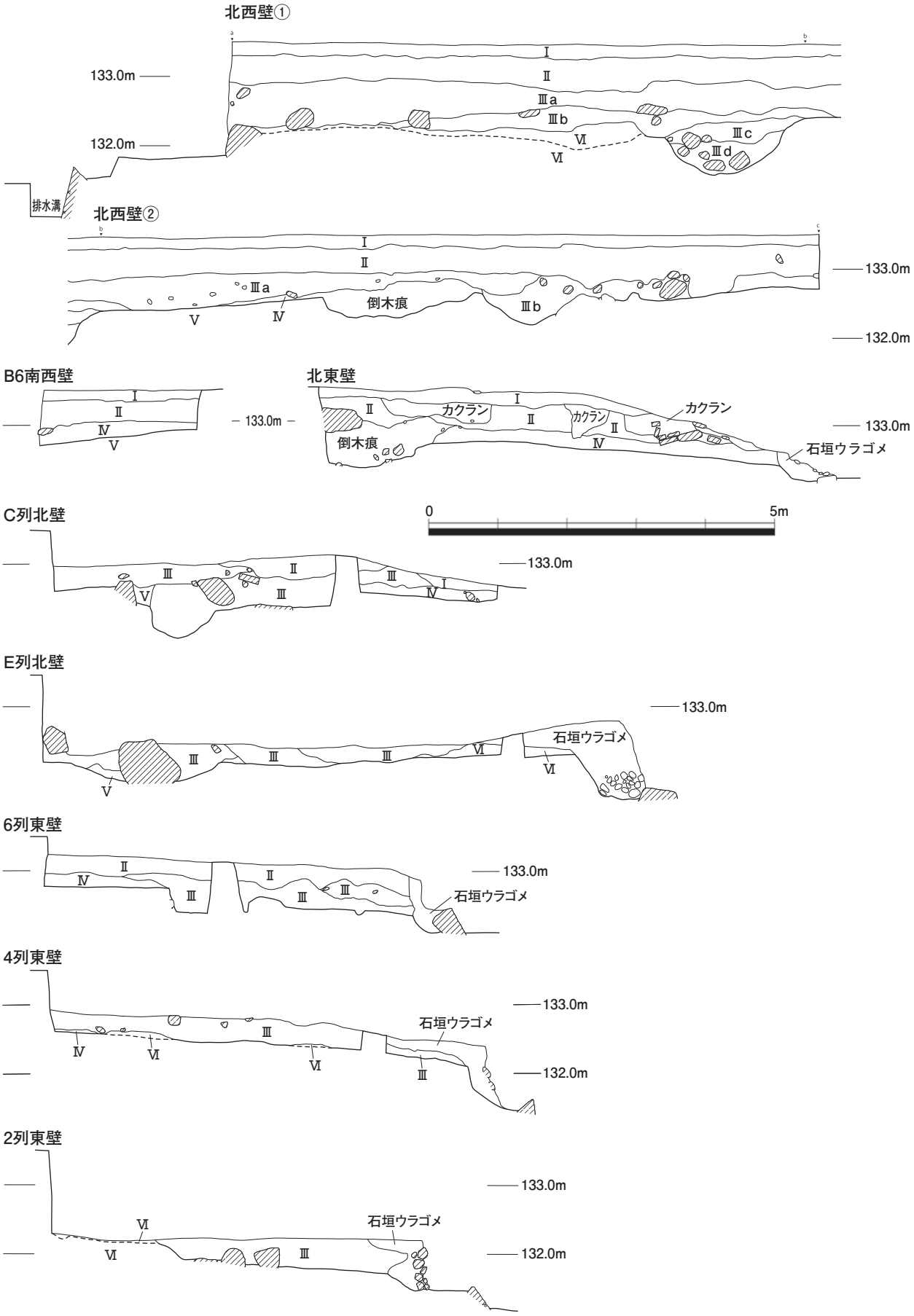
Ⅳ層　黒褐色土。粘性ややあり，しまり強い。５ｍｍ以下の礫含む。
縄文時代後・晩期の遺物包含層。

Ⅴ層　黄褐色土。礫を含まず，粘性，しまり弱い。

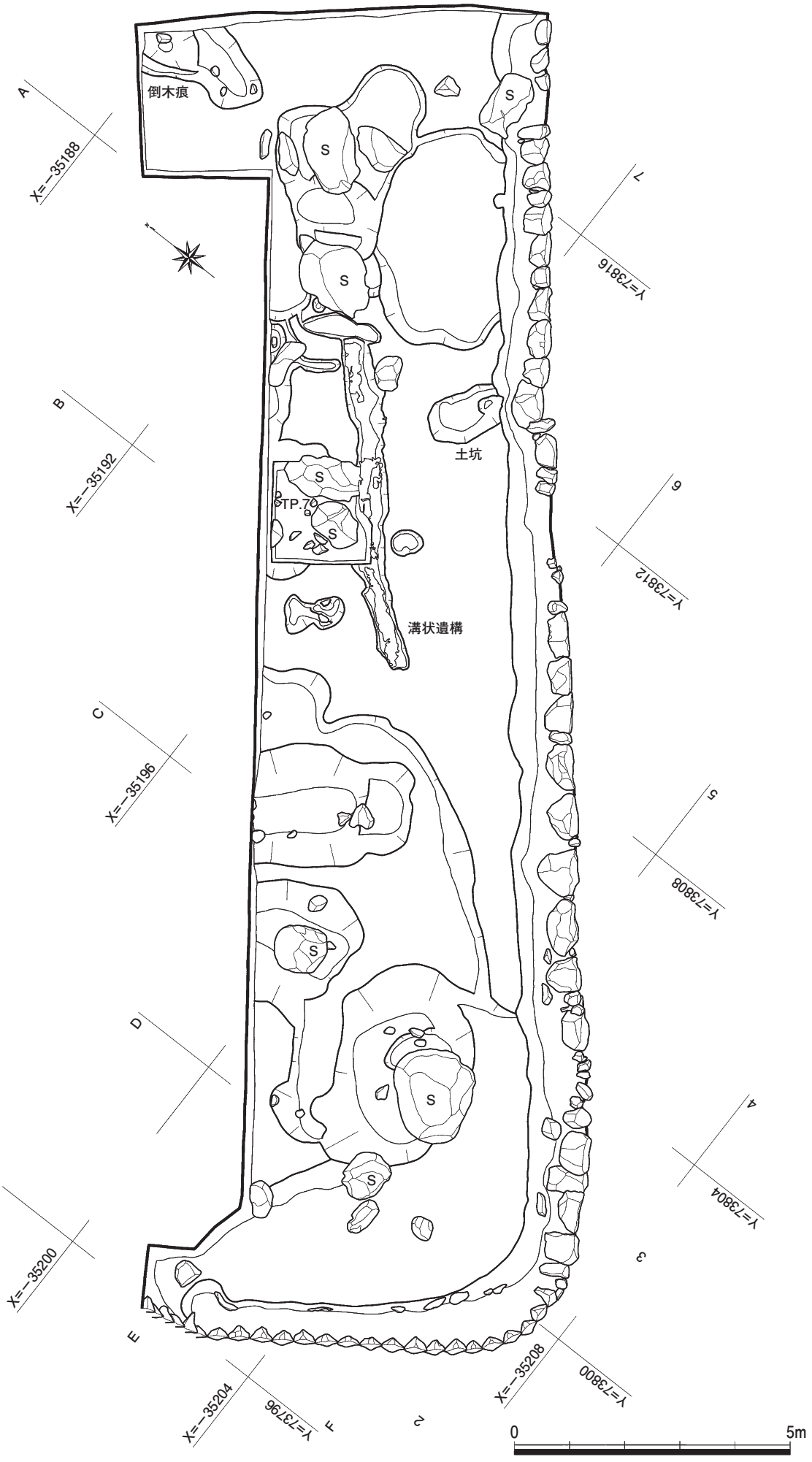
慈恩寺跡における本調査時の基本土層は，平成28年度に実施した範囲確認調査における基本土層と大きく変わらない。調査地点は，ビニールハウスによるイチゴ栽培がおこなわれてきた地点であり，耕作土下にはプラスチック片やビニール片などの現代遺物を多く含む造成土が認められ，厚く嵩上げがなされている状況が確認された。

第３節　遺構

調査区地点での耕作地造成にあたっては，いったん重機によって大穴を掘り，周辺の削平部から出たと考えられる大石を埋め込んで，その後盛土によって嵩上げを行うという工程が復元できた。よって，調査区の大部分で遺物包含層及び遺構面が削平を受けており，遺跡の主体となる縄文時代の遺構として検出できたものは多くはない。土坑１基とその他ピット数基が認められた程度である。また，所属時期は不明であるが，溝状遺構とそれに伴う炭化材の検出があった。


北西壁①
133.0m
132.0m
排水溝
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲa
Ⅲb
Ⅲc
Ⅲd
Ⅵ
北西壁②
Ⅴ
Ⅳ
倒木痕
B6南西壁
北東壁
カクラン
石垣ウラゴメ
0
5m
C列北壁
E列北壁
6列東壁
4列東壁
2列東壁

第 6 図　土層図（S＝1/80）

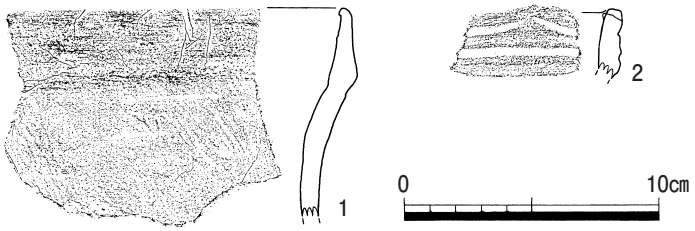


第 7 図　遺構配置図（S＝1/100）

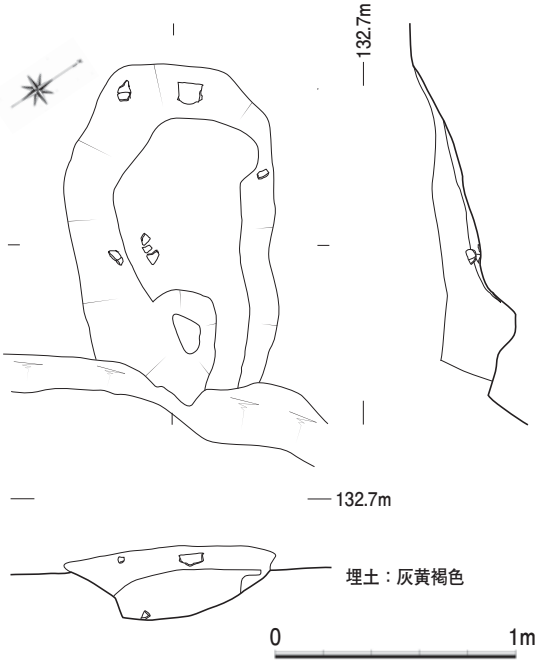
土坑（第８図・第９図）

グリッドＤ５・Ｄ６において，Ⅴ層上面からの検出である。東側は石垣の造営によって失われており，長さ1.44m以上，幅0.88m，深さ0.3mを測る。埋土からは縄文時代後期の土器片を検出した。

１・２は土坑内出土の遺物である。ともに口縁部文様帯をもつ深鉢の口縁部である。**１**は文様帯に沈線を引かないタイプである。**２**は波頂部の資料で，口唇部に刻目を施し，文様帯には２条の沈線を引く。



第９図　土坑内出土遺物（S＝1/3）



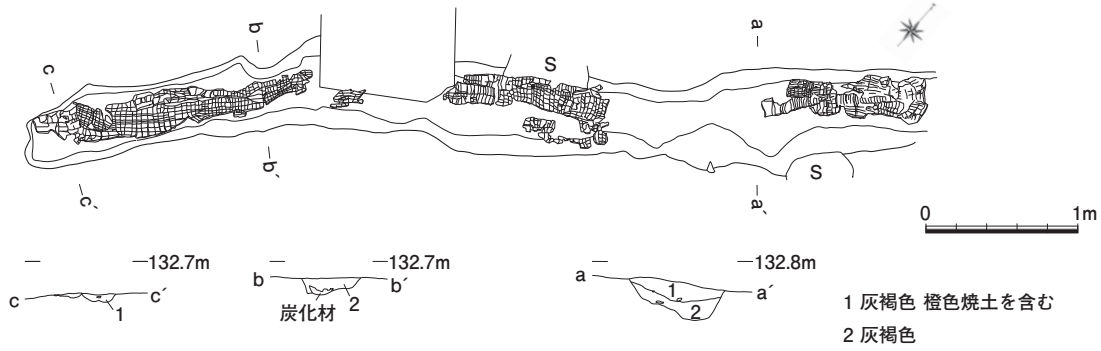
第８図　土坑平面図・断面図（S＝1/30）

第１表　土坑内出土遺物観察表

図	番号	グリッド	器種	文様・調整		色調		胎土
				外面	内面	外面	内面	
9	1	Ｄ5・Ｄ6	深鉢	研磨	ナデ	褐灰・にぶい褐	灰褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	2	Ｄ5・Ｄ6	深鉢	ナデ	ナデ	赤褐	赤褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子

溝状遺構（第10図）

グリッドＣ５・Ｄ５において，Ⅴ層上面からの検出である。長さ6.05m以上，最大幅0.7m，深さ0.29mを測り，板状の炭化材を検出した。



第10図　溝状遺構平面図・断面図（S＝1/50）

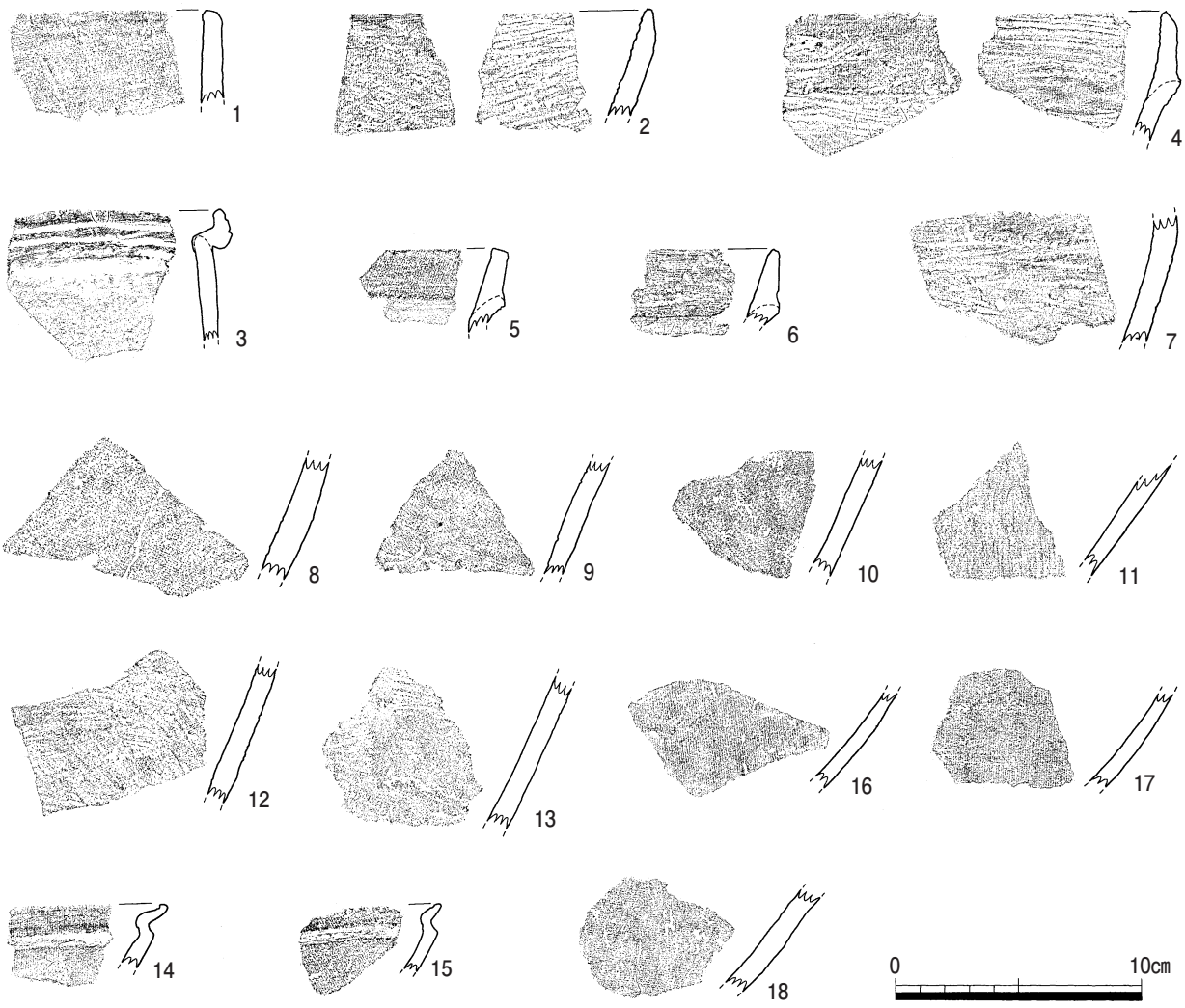
第４節　出土遺物

土器（第11図）

1 〜13は深鉢の資料である。**1** は口唇部を丸く整える。**2** は断面先細りとなる口唇部で，内面には貝殻条痕調整を明瞭に残す。**3 〜 6** はいわゆるタガ状口縁と呼ばれる文様帯をもつ深鉢の口縁部資料であるが，**4 〜 6** は文様帯に沈線を引くことはしていない。**3** は幅のせまい文様帯に２条の沈線を施す。

7 〜13は胴部の資料である。いずれも仕上げ調整としてナデや研磨を施しており，胎土に赤色粒子を含むという特徴がある。**7** は屈曲部の資料で貝殻条痕調整の上から研磨調整を施している。

14〜18は浅鉢の資料である。**14・15**は口縁部の資料である。**14**は短い頸部で口縁部内面に段をもつ資料である。**15**も**14**と同様の資料と考えられるが，器面の状態が悪く，口縁部内面の段の有無は不明瞭である。**16〜18**は浅鉢胴部の資料である。いずれも黒色磨研で，**16・17**は内外面ともに，**18**は外面を黒色に焼き上げる。



第11図　出土土器（S＝1/3）

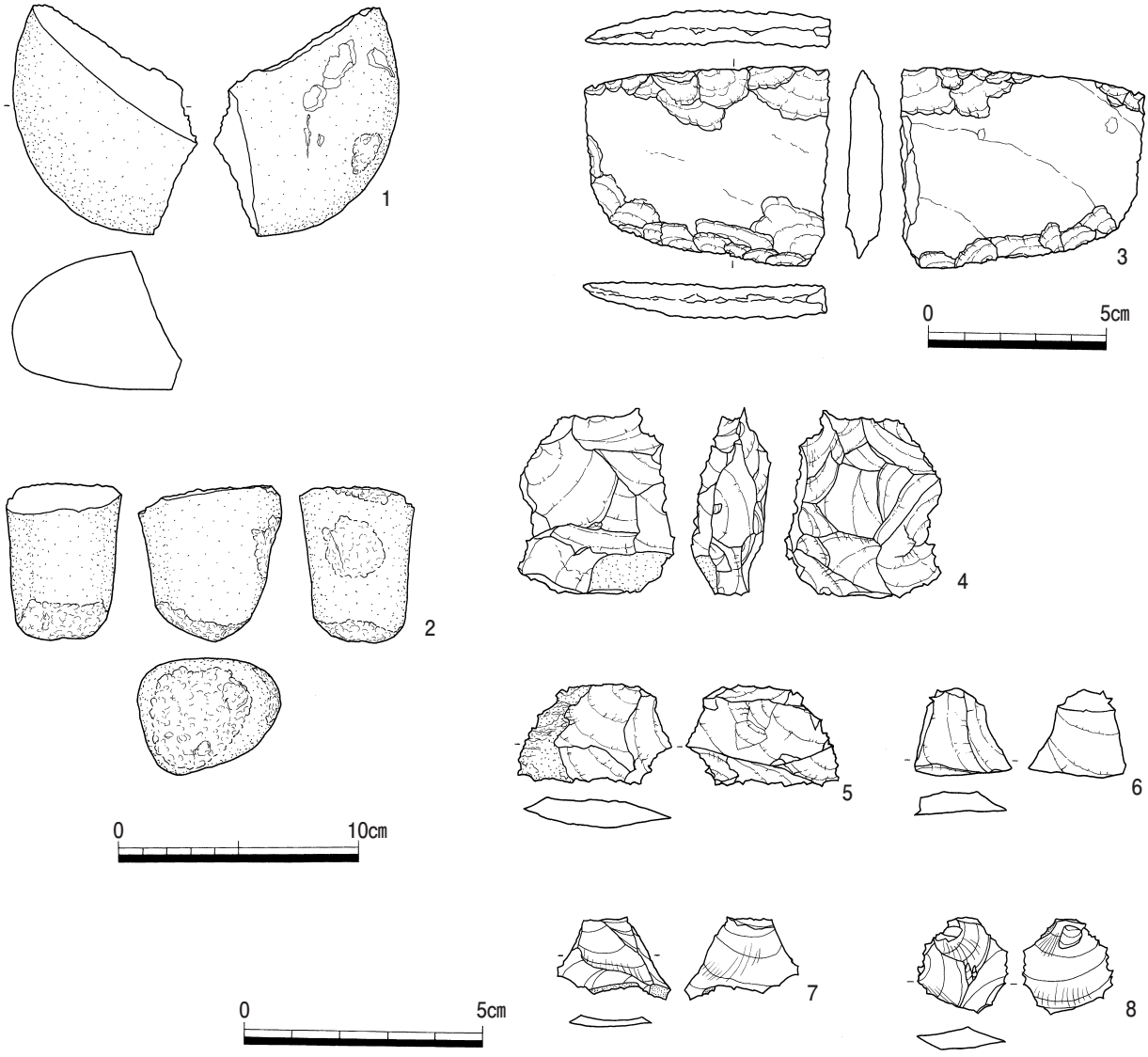
石器（第12図）

1 は砂岩を素材とする磨石で，表裏両面に滑面をもつ。2 は砂岩製の叩石である。端部及び側面に打痕を残す。また，破損面の一部にも打痕が認められ，叩石として使用中に破損するもそのまま使用を継続したものと考えられる。

3 は打製石包丁とした。安山岩の扁平な素材の周縁に剥離加工を施している。

4 ～ 6 はサヌカイト製の石器である。4 は石核である。一部に自然面を残す一次剝離の剥片をもとに，限界近くまで剥離作業を行っている。5 ・ 6 は剥片である。5 は一部に自然面を残す。

7 ・ 8 は黒曜石の剥片である。どちらも不純物のない漆黒色を呈するもので，佐賀県伊万里の腰岳産とみてよかろう。7 は末端に，8 は打面に自然面が認められる。



第12図　出土石器（1 ・ 2　S＝1/3，3　S＝1/2，4 ～ 8　S＝2/3）

第 2 表　出土土器観察表

図	番号	取上番号	器種	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土
						外面	内面	外面	内面	
11	1	J0106	深鉢	C 7	Ⅳ	ナデ	ナデ	橙	橙	角閃石・長石・石英
	2	J0057	深鉢	C 6	Ⅳ	ナデ・研磨	貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英
	3	J0016	深鉢	D 5	Ⅳ	沈線，研磨	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	4	J0075	深鉢	C 6	Ⅳ	ナデ，貝殻条痕	貝殻条痕・研磨	黄褐・にぶい橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	5	J0094	深鉢	C 6	Ⅳ	ナデ	ナデ	明褐	明褐	角閃石・長石・石英
	6	J0064	深鉢	C 5	Ⅳ	研磨	研磨	橙・にぶい黄橙	黄褐	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	7	J0082	深鉢	B 7	Ⅳ	貝殻条痕・研磨	研磨	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	8	J0046	深鉢	D 5	Ⅳ	ナデ	研磨	明黄褐	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	9	J0078	深鉢	B 7	Ⅳ	擦過・研磨	擦過・研磨	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	10	J0105	深鉢	B 7	Ⅳ	研磨	ナデ	橙	橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	11	J0023	深鉢	D 5	Ⅳ	研磨	研磨	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	12	J0112	深鉢	D 4	Ⅳ	擦過・研磨	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	13	J0120	深鉢	D 5	Ⅳ	貝殻条痕・研磨	ナデ	橙	浅黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	14	J0041	浅鉢	D 5	Ⅳ	研磨	研磨	橙	橙・オリーブ黒	角閃石・長石・石英・赤色粒子
	15	J0003	浅鉢	E 4	Ⅳ	研磨	不明	橙	橙	角閃石・長石・石英
	16	J0108	浅鉢	D 5	Ⅳ	研磨	研磨	暗灰黄	にぶい黄	角閃石・長石・石英
	17	J0121	浅鉢	D 5	Ⅳ	研磨	研磨	黄灰	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英
	18	J0025	浅鉢	D 5	Ⅳ	研磨	研磨	黄灰	にぶい黄橙	角閃石・長石・石英・赤色粒子

第 3 表　出土石器観察表

図	番号	取上番号	器種	石材	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
12	1	J0092	磨石	砂岩	B 6	Ⅳ	9.6	7.7	5.8	484.8
	2	J0077	叩石	砂岩	C 6	Ⅳ	6.6	6.0	4.9	269.5
	3	J0126	打製石包丁	安山岩	C 7	Ⅳ	6.9	5.6	1.0	58.4
	4	J0047	石核	サヌカイト	D 5	Ⅳ	4.0	3.3	1.7	21.6
	5	J0117	剥片	サヌカイト	D 4	Ⅳ	2.2	3.2	0.6	4.5
	6	J0067	剥片	サヌカイト	C 5	Ⅳ	1.9	2.1	0.5	2.5
	7	J0044	剥片	黒曜石	D 5	Ⅳ	1.8	2.4	0.3	0.7
	8	J0089	剥片	黒曜石	B 6	Ⅳ	2.0	1.9	0.5	1.5

図　　版

遺跡上空から雲仙方面を望む
航空写真①

図版 2

遺跡上空から有明海と湯島を望む
航空写真②

作業状況

TP. 1 西壁

TP. 2 西壁

TP. 3 西壁

TP. 4 北壁

TP. 5 南壁

TP. 6 西壁

TP. 7 南壁

範囲確認調査

図版 4

調査区全景

遺構検出状況
航空写真③

作業状況

図版 6

（南西から）

（北東から）

（南から）

（東から）

（北から）

（北から）

（西から）

（北東から）

発掘調査前状況・表土剥ぎ状況

（北東から）

（北から）

（東から）

（北から）

遺物出土状況

図版 8

土層堆積状況（南から）

遺構検出状況（東から）

遺構検出状況（西から）

遺構検出状況（南西から）

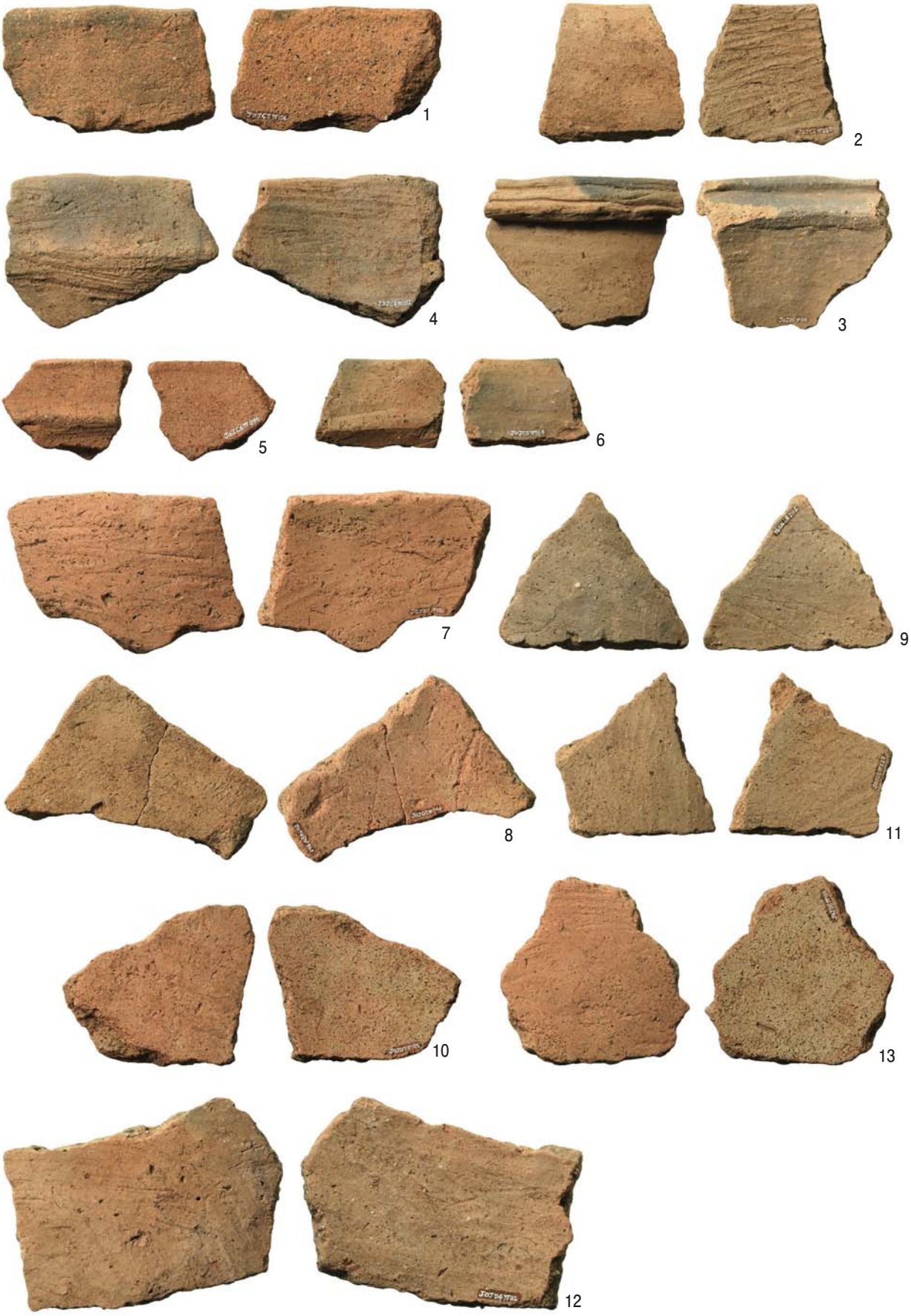
土坑検出状況（北東から）

溝状遺構・炭化物検出状況（西から）

溝状遺構・炭化物検出状況（南西から）

土坑内出土遺物

土層堆積状況・遺構等検出状況



出土遺物①

図版10

出土遺物②

報告書抄録

ふりがな	じおんじあと
書名	慈恩寺跡
副書名	市道城平上木場１号線・城平７号線道路改良工事に伴う発掘調査
巻次	
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	本多　和典
編集機関	南島原市教育委員会
所在地	〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1023番地　TEL0957-73-6705
発行年月日	西暦2018年９月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
じおんじあと 慈恩寺跡	みなみしまばらし 南島原市 にしありえちょう 西有家町	42214	51	32° 40′ 48″	130° 17′ 13″	20170525 ～ 20170728	145㎡	市道改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
慈恩寺跡	遺物包含地	縄文時代	土坑 （縄文時代） 溝状遺構	土器・石器	

南島原市文化財調査報告書　第14集

慈　恩　寺　跡

2018.9.30

発行　長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷　合資会社 有正舎

南島原市文化財調査報告書　第14集

慈恩寺跡

―市道城平上木場1号線・城平7号線道路改良工事に伴う発掘調査―

2018

長崎県南島原市教育委員会